

## 季節の花だより



### ● 柵水高原の「マツムシソウ」

マツムシソウは全国各地の草原に生える多年生植物。昭和四十年代初めまでは柵水高原から鏡ヶ成にかけての草原に群生していましたが、四十年代後半には心ない観光客の乱獲や、放牧をしなくなった環境変化に伴い減少し、消滅の危機に陥ったとのこと。そんな中、1998年から、保護・増殖するため、地元の人自然保護関係者らによってマツムシソウの苗を植える活動が熱心に進められました。今年も立派に育って、薄紫の可憐な花を咲かせることでしょう。大切に見守りたい、大山の秋の花です。

### ● 花ではないけれど「ナナカマド」

真っ青な空に燃えるように、鈴なりの実を付けるナナカマド。この紅い実を見るだけで、秋らしい雰囲気になります。花はほとんど知られていませんがこれまた独特の雰囲気を持って、5月から6月にかけて白い可憐な花をいっぱいにつけます。ナナカマドはバラ科の植物。存在感のあるこの名前の由来は…この木が燃えにくく、7回かまどに入れても燃えないというところから名付けられたということです。



### ● 食べる前に花も愛でたい「ソバの花」

ソバはタデ科の1年草。9月にはいと純白の可憐なソバの花が咲きだします。遠くから見ると、まるで白い絨毯。近年、水田転作によってソバ栽培が急増していることもあり、山間のあちこちで見かけるようになりました。その純白の絨毯の中に真っ赤な曼珠沙華、さらにその横には黄金色に輝く稲穂の絨毯…。秋色のパッチワークが目を楽しませてくれます。もちろん、秋深まる頃いただく新蕎麦も楽しみです。

## 季節の味だより



### ● 境港のベニズワイガニ

日本海沖合の深海に生息し、茹でる前から全身を紅赤色に染めたベニズワイガニ漁が、9月始めに解禁。境港の市場に行くと、山積みになって売られています。1枚500円から2,000円くらいでしょうか、松葉ガニに比べると手軽に買うことが出来、しかもけっこうウマイ!!茹でたため、買ったその場で食べることもできます。潮風につつまれ、カモメの乱舞を見ながら朝どれのカニを食す。これが秋の山陰B級グルメです。11月初旬には松葉ガニも解禁!!価格はベニズワイガニの数倍になりますが、こちらも間違いなく、間違いなくウマイですよ!!食べ比べてみてください。

### ● りんご狩り、梨狩り

大山の秋は実りの豊かな季節を迎えます。その中で、手軽に楽しめる収穫体験を2つご紹介!!まず、りんご狩り。北麓・大山町(旧名和町)神田の「神田りんご園」。低く育てたりんごの木は子供でももぎとりができます。そして、梨狩り。こちらは大山道路沿いの「大山観光農園」。わかりやすい場所にある大きな梨園です。二十世紀のシーズンの後は赤梨の「新興梨」が楽しめます。大山でご自身の「収穫祭」を楽しんでみませんか!?

- 神田りんご園/TEL0859-54-2211
- 大山観光農園/TEL0859-27-2678



## とっとり花回廊

TEL.0859-48-3030



### その他の見どころ

紫のピロードのようなサルビア・レウカンサが登場!ローズガーデンには140品種500株のバラが咲き乱れます。

### ● サルビア・フェスティバル

10月1日(土)~10月23日(日)

花回廊・花の丘の緋色のサルビアとまん丸の容(かたち)をした鬼の山・鬼住山。ボンファイヤー(大きなかがり火)と素敵なタイトルのつくサルビア・スプレンドス(別名「緋衣草」)の見頃は10月。ちなみにその花言葉は「燃ゆる思い」。花回廊自慢のこの風景は、きつとアナタを虜にすることでしょう!!

### オリジナル体験教室

葉草の基礎知識についての講演会や、サルビア染め体験、きのご探索会などいろいろなメニューを企画!お楽しみに。

## 展覧会 Pick up!

- ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展  
プラハからパリへ  
華麗なるアール・ヌーヴォーの誕生  
島根県立美術館



《黄道十二宮》  
1896年  
リトグラフ  
65.7×48.2?  
ミュシャ財団蔵  
(C)Mucha  
Trust 2004

1900年前後、ヨーロッパを中心に花開いた国際的な芸術様式アール・ヌーヴォー。その役割者の一人と言っても過言ではない人物、それが東欧チェコ出身の画家アルフォン・ミュシャでした。波打つような曲線と華やかな色彩。花や植物、宝石などとともに描かれた女性像はベル・エポック(古き良き時代)を今まさに迎えようとしていたパリで一世を風靡します。ロンドンにあるミュシャ財団の全面的な協力を得て開催される本展覧会では、約100点の日本初公開作品を含む240点の作品を通して、多様なミュシャ像をご紹介します。

- クレパス誕生80周年  
「近代巨匠たちが描いたクレパス画展」  
日南町美術館



「婦人像」 小磯良平



「ミモザ」 奥西健男

クレパスは1925年、日本で初めて開発された画材です。その開発に関わった人物の一人が鳥取県日南町出身の佐武林蔵でした。本展では、この機会に、クレパスの持つ魅力をご紹介するため、小磯良平、林武、三岸節子ら近代の巨匠たちが描いたクレパス画80点を展示します。

- 企画展 戦後60年  
「伝えておきたい 戦中・戦後の暮らし」  
山陰歴史館



「教練」 戦時教育の一環として、軍事に関する訓練がなされた。

昭和20年(1945)8月15日、太平洋戦争が終わって今年は60年にあたります。戦後のどん底の生活から見事に復興を遂げた現在の米子の姿を想うとき、終戦当時の暮らしぶりをご覧頂くこの企画展は、今を生きる私たちの暮らしを改めて考える良いきっかけになるのではないのでしょうか?